

—第39回市政一新市民会議— 協議内容要旨等を公開します

平成 21 年 10 月 23 日に第 39 回市政一新市民会議が開催されました。
以下にその内容の要旨を公開いたします。

第 39 回市政一新市民会議

1. 第 3 次市政一新プログラムの検討について
2. その他

第39回市政一新市民会議議事要旨

1. 開催日時 平成21年10月23日(金曜日) 9時30分～11時40分

2. 場 所 庁議室

3. 出席者 市政一新市民会議

会 長	中川 幾郎	学識経験者
委 員	伊藤 英次	関係団体
〃	梅本 俊子	公募委員
〃	菅井 杏	関係団体
〃	中山 登貴	関係団体
〃	溝延 克彦	公募委員

(欠席者)

〃	岩崎 恭彦	学識経験者
〃	富山 修	関係団体
〃	豊岡 千代子	関係団体
〃	室谷 芳彦	関係団体

(50音順・敬称略)

企画財政部長	山本 順仁	
行政改革推進室長	橋本 裕徳	
行政改革推進室	今村 典義	室員
〃	牧口 将之	室員

4. 内容

1. 第3次市政一新プログラムの検討について

2. その他

第 39 回市政一新市民会議内容要旨

○企画財政部長挨拶

いよいよ市政一新プログラムの素案ができました。庁内でもだいたい検討し、改革を何とか一区切りつけて、未来に向かってやっていきたいという気持ちで作上げたもので、末尾には具体的な改革項目も示しています。予定としては、年末に議会へ説明し、パブリックコメントをいただき、最終的にはまた市民会議で議論いただいて、本年度中に完成することとなると思います。それではよろしくお願いいたします。

○会長

市政一新プログラム素案についての説明をお願いしたい。

事務局より、資料にもとづき市政一新プログラムの素案について説明

○会長

説明に関して意見等があればどうぞ。

○委員

3 頁の下から 3 行目「このまち」の後に「に」が抜けている。6 頁の最終行に誤植がある。

○会長

16 頁の 14 行目の文章がおかしい。同頁最後の行の「情報収集」は何の情報収集かを書かないと分かりにくい。国の動きなどということであれば、民主党政権に変わったことによる政策変化や、地方分権改革の具体化などに対応したという部分に触れておいた方がよい。

○委員

これからの会議は、今回もらった素案をもとに具体的に意見を言っていく形で進めてほしい。同じような資料が多いので、これ以上資料を増やさないようにしてほしい。

○行政改革推進室長

この素案を基礎に、市民会議や内部の会議または市民の皆さんにも意見を聞くという形にさせていただく。文面の修正などはするが、平成 22 年 3 月に完成する時もこの形となる。

○ 委員

今後修正するとしても、変更点の説明があれば十分なので、それを全て印刷して送ってもらう必要はない。

○行政改革推進室長

今後会議での意見や、市民からの意見をうけて、今の素案から案という形にしたいと考えている。検討の段階で、これ以上同じような資料を送付することは控える。

○会長

今回の市政一新プログラムを「完結編」とすることについて異論は無いか。

○企画財政部長

庁内会議でも、3次とつけると4次、5次と続いていくイメージになるという意見があった。

○委員

「完結編」とすべきだと思う。現市長はこのような取組をずっとやってきたが、前市長は名張を10万都市にすることを目的として名前の違う会議などをやっていたと思う。民主党政権になったことなどの背景が分かるようにするためにも、いったん市政一新という文言は完結とし、また何か問題があった時は新たに名前をつけたほうがわかりやすいと思う。

○会長

異論は無いということで、本文中の「第3次市政一新プログラム」はすべて「市政一新プログラム完結編」に変えることとする。

○行政改革推進室長

文章については、今後事務局で部分的に整理修正をさせていただきたい。

○会長

3頁の2行目に「自分たち」と「私たち」という文言が混在している。6頁の職員数の推移のグラフの説明書きが分かりにくい。その下のレーダーチャートについては、評価できる指標とまだ要注意である指標を明記した方がよい。

○行政改革推進室長

表現、グラフの説明書きについては修正する。レーダーチャートについては平成16年度から作られているので、過去のものと比較することを考えている。

○企画財政部長

比較してグラフが若干良くなっているところを示し、単に表を載せておくだけでなく、どう関連してそうやってきたかを説明すべきと考えている。

○会長

市民が見たときにいいのか悪いのか分かりやすいようにすべきである。

12 頁の表の中にも「第 3 次」の文言があるため「完結編」に直す必要がある。14 頁の（4）の 2 行目に「当面の危機的な財政状況」とあるが、「平成 17 年度に直面すると予測された」など具体的な記述を入れ、平成 17 年度に破綻する危険性があったことを分かるようにした方がよい。15 頁の項目 3 の②は「効率的に機能する組織・機構」となっているが、効率性追求ばかりでなく、市民の幸せに役立っているという実感が得られるような意味で「効果的」を入れたほうが職員の士気に響かなくてよいと思われる。13 頁の「質的効果」という言葉については、どのような質のことを言っているのかが見えないため、もう少し明確にすべきである。抽象名詞である「質」を議論する場合は、どの価値観に基づく「質」なのかを特定しないと議論できないので、ここでいう「質」というものをもっと分解しておく必要がある。職員としても、何の「質」かが分からなければ、質の向上と言われても受けて立ちようがない。

他の資料として「第 2 次市政一新プログラム推進結果(20年度)と効果抑制額について」と「名張市総合計画「理想郷プラン」後期基本計画（素案）概要」が出ている。それについて簡単に説明をお願いしたい。

事務局より、資料に基づき第 2 次市政一新プログラム推進結果(20年度)と効果抑制額及び名張市総合計画「理想郷プラン」後期基本計画（素案）の概要について説明。

○会長

政策指標は入っていないのか。

○行政改革推進室長

今の資料には無いが、指標については全て数値目標を立ててやっていく。前回から数値目標は立てているが、さらに工夫するという事で目標を立て直している。

○企画財政部長

現在 14 地域で市民にも説明しているところであるが、具体性に欠けるという意見がある。基本計画なので具体的などころまでいけないということもあるが、実施計画等を公表していく中で、目標を立てなければいけないという市民からの意見に対して、成果指標を工夫して盛り込んでいきたいと説明しているところである。

○会長

説明について何かご質問、ご意見等ありましたらどうぞ。

○委員

総合計画の資料の11頁に「地域が光る名張」、「地域が光り輝く名張」とあるが、違いがあるのか。

○企画財政部長

省略していると思う。

○委員

病院の方で立てた計画の目標値には近づいているのか。

○企画財政部長

名張市の再建計画のなかでは、区画、土地開発公社、病院の3つが苦しいといわれている。前の2つについてはある程度目途がついているが、病院については今後どう推移するか市としても心配している。国からの3年間で黒字にせよという指導に対し、病院としては一応5年に繰延べしているものの厳しい数値があがっており、平成20年度の実績は計画値よりも若干悪くなっている。平成21年度については、病院からの情報によると、この半期で去年より1億くらい収入が上がっているということであるが、最初立てた数値よりは悪くなっているということである。それらに対し今後一般会計がどう補填していくかについて、国とのやり取りの中でも議論になっている。

○委員

国からの補助は無いのか。

○企画財政部長

平成19年度決算時点で赤字を持っているものについて、病院特例債という措置があり、名張市もそれを借りてやってきたが、現在具体的にそのような補助は無い。政府では医療再生基金を作って、再生や機能分担をしている病院に力を貸そうということであったが当初よりも減額されている。その補助については伊賀管内でも要望している。

○会長

第2次市政一新プログラムの推進結果と効果抑制額についての資料の5頁に、「県下の順位」とあるが、市は都道府県の下ではないので「県内の順位」とすべきである。

○行政改革推進室長

意識を変える必要があると思う。

○会長

有料広告事業で、ネーミングライツを実施する気はないのか。

○行政改革推進室長

現在青少年センターでネーミングライツについて募集をしている。

○企画財政部長

公募で、金額は下限 300 万ということをお願いしている。放っておいても進まないの
で、トップからも積極的に働きかけている。

○会長

地場産業の大手の工場に頼んで協力してもらったらよいのではないか。むしろその方
が知名度も上がると思う。

○行政改革推進室長

小さなものから大きなものまで市の資産を活用しようということで広告事業は出発し
ているが、内部的に言うと、現在は上がった成果を自分の部署で活用することはできな
い状況なので、その部署の経営にいくらかを投入していけるような発想も必要ではな
いかと考えている。実際共通封筒については広告料で 4、50 万の印刷費を回収できている。
浮いた分の有効活用が攻めの部分で必要になると考えている。

○会長

ごみ袋にも広告を入れても良いのではないか。

○企画財政部長

それは実施している。1 回目の募集では応募ゼロであったが、担当部長が自分で企業
を回って広告を入れてもらったということである。

○会長

広告に協力してくれた企業は指名入札の際に加点するなどしてはどうか。単に一番安
い企業と契約するだけでなく、地元には本社があるか、法人税を払っている企業か、地元
雇用の達成率がどのくらいかなど、地域内経済の貢献度をプラス加算していくのも大事
である。他に女性、障害者、高齢者、母子家庭の母親の雇用率などをプラス加算するな
ど、加算指標を工夫する必要があると思う。考査委員会の時も言ったが、契約関係の部
門では着手が進んでいない。企業に名張と取引するのなら努力しなければならないと思
ってもらったほうがよいのではないか。

○委員

名張の市営球場を県営に鞍替えすることはできないか。伊賀地区は県営球場がないの
で、県営にすることで格上げになり設備等がよくなるのではないか。

○室長

逆に県の施設を市町村の管理にするという方向が強い。

○会長

全国の都道府県は、自分のところにかかっている行政改革の圧力を市町村に転化しようと必死なので、そのような話はまず実現しない。

○行政改革推進室長

名張には県の施設は全くない。土木関係の出張所も全てなくなっている。

○会長

都道府県は広域行政的な補完行政と、群部で弱小のところを拠点的に穴埋めすることに特化していつている。

○委員

できるところとできないところがあるが、草刈をしている公園の法面を、農園のようにして果実を採ってもらう代わりに草刈をやってもらうのもよいのではないか。

○行政改革推進室長

制度としてできる可能性はあるが、そのような発想を具体的にしていくために市から財源を見出すのは難しい。違うやり方や工夫が必要ということで、まちの人材や企業等の組み合わせでどのようにしていくかというのが、「完結編」における力の見せ所と考えている。

○会長

全体を総括しての意見を全員からお願いしたい

○委員

このとおり進めば良いまちになると思う。総合計画の素案の6頁にある表によると、名張の住み心地や継続して居住したいという面では満足していただいているが、雇用等の面では不安な面がある。病院等についてもかなり不満に思っている面もあるので、その辺をてこ入れする文言があればよいと思う。ただ市民の皆さんに文章を読んで、最後までわかっただくのは難しい。自分の住んでいる近くだけしっかりしてくれれば構わないというのではなく、このような名張市の状況の中で、一生懸命皆で作っていかねばいけないというところが一番皆に分かってもらいたい部分だと思う。税金を払っているから当然だというのではなく、自分達が住むまちを自分で守っていかねばという意識付けが大事だと思う。

○委員

保育所民営化について、市役所が引き続き保育料を徴収するということであるが全部任せてこそ民営化と思うので、保育料徴収も任せるべきである。

柏原市では、小中一貫校が進んでおり、名張では特認校にあたる学校を一貫校としている。地域によって取組に差があるのは当然であるが、全体的にこれからも子どもの数は減り続けるので考えてほしいと思う。名張で小中一貫校をすると、中学校が増えてしまうので高校も含めた一貫校を考えている。一貫校を取り入れたとしても、暫定的で、もう一度編成するという時期が来ると思うが、無駄なものをお金がないと切り捨てるのならば、学校に通わなければならない子のために教育に力を入れてほしい。

神戸、大阪、奈良では大学と研究機関が協力して生涯学習関係の講座をしている。名張では皇學館大学の撤退も決まっており難しいかもしれないが、知的好奇心を刺激するような取組がもっとあればいいと思う。

これから老人人口も増えていくなかで、交通弱者のためにも、生涯スポーツを含めて自転車を中心に考えていってほしい。青連寺湖マラソンと同様に自転車競技をしてもらえないか。子どもの時から生涯スポーツを教えることも必要と思う。

○委員

理想郷プランの項目について、内容が被っているものがあると思うがどのように分けているのか。おそらく部門ごとに書いているのだと思うが、もう少し名張のオリジナリティがあってもよい。どの項目を優先的にやっっていこうと考えているかがわかりにくい。それがなければ物事は進んでいかないのではないかと。独自性を具体的に入れたほうが良い。

子どもの頃から、歴史・文化・スポーツ等に触れる機会を持つということも、名張で育った子どもが残ってくれるための大切な要素だと思うので力を入れてほしい。

観光については、情報交流センターに観光協会を移転した方がいいのではないかとと思う。あれだけ名張駅の東口を開発しているのに、観光協会を西口側に置いたままにしてあることに疑問がある。

健康・予防については、先日のイベントで、これから名張ではロコモティブシンドロームを率先して意識していきましょうということで講師が呼ばれていた。ただ予防などと書くだけでなく、名張が力を入れていることを具体的に書いてはどうかと思う。

○委員

職員の対応について、素早い反応が伴うかが問題である。施設などの改善をいろいろ要望してもなかなか返事が来ず、最後にはお金がないと言われるが、職員が少し動けば済むようなものもあると思うので、それができないのに大きな題目を言っても到達するのは難しい。

バイオマスタウン構想についての記述が入っていないが、新しい取組は書き加えたほうが良いと思う。

○企画財政部長

資料は概要版なので出てこないが、本編には書いてある。本編は現在インターネット上で公開している。長大なので読むのは大変であるが、総合計画は全部を書かなければならないのでどうしてもそうになってしまう。

○委員

後期基本計画の概要6頁の表を見ると、市民活動のポイントが低くなっている。市民活動実践事業も応募者が少なくなってきたと聞いているが、自分達も活動する中で意欲がマイナスになっている部分があり、そのあたりを今大きく見直しているところである。

自分でも市民活動をしているのに、市民活動支援センターが新しくなったことは知らないという人もおり、まちの人に聞いても知っている人は少ないと思う。自分は以前から印刷する時だけ市民活動支援センターを利用しているが、体育館から駅前に変わったメリットを考えたところ、駐車券を入れて近辺で買い物できることくらいしかない。理由としては情報が伝わっていないことと、目的がよくわからないことがあると思う。

市民活動実践事業の催しの日程について、新聞のチラシや広報、スーパーへの掲示をしているのに伝わっていないということもあった。つつじが丘をみると、大手3社の新聞をとっていない家が4分の1くらいはあると思う。その新聞をとっていない若い世代の人が言うには、ゴミを出すときに困るので、以前は広報を自分で取りにいていたが、現在は携帯電話に配信されるようになったので困らなくなったということである。世代によって情報収集方法が違ってきているので、それも踏まえた情報発信を考えてほしい。若い世代の人が元気な姿を見ないので、今の時代にあった形で情報が行き来するようにしていくべきである。若い世代が将来に夢を持って一緒に参加したいと思えるような情報の発信や収集の方法が大事であると思う。

○会長

今いただいた意見は、求めるべきまちの姿にもつながると思う。市民会議は改革のための委員会ではあるが、改革プログラムのどこかに、改革の結果こういうまちにするという明るいイメージがほしいということだと思う。苦しいことばかりで、完結編というが完結した後どうなるかが見えないということが言われた言葉の中に散見される。

キーワードとして、教育水準の高いまち、教育が魅力的なまち。名張に住んでいれば非常に高い教育を受けることができるなど教育力で勝負するということをもっと考えるべきである。お金ではない別の努力が必要なので、その視点を入れてはどうか。

また名張の場合、文化力はかなりのものを持っているはずであるが、資源化して戦略化していく点が弱いという指摘がある。夏見廃寺、旧街道筋などはオンリーワンの魅力を持っていると思うが、それと観光協会とうまくつながっておらず、また市役所も観光に関する戦略的姿勢が弱いのではないか。例えば関西の人からも有名な倶留尊のススキがシーズンであるが、行くのに最も便利なのは名張駅なのに客があまり来ていない。教育、文化、観光にもっと力を入れるということをもっと出していいと思う。お金より団体間の協力やバス会社、鉄道会社などとの共同研究などをすることで開発できるのではないか。

名張の売り物として、機敏で機動的に市民も役所も動くというのを打ち出してはどうか。これだけ行革をやってきて軽快な力を発揮した事実を誇りに思ってよいと思う。せっかくこれだけのものがあり、実力はあるのだからそういったことに着眼点を持って、もっとまちとしての収入や訪問数、移住者を増やす努力目標をたててはどうかということである。

市民活動支援センターについては、たまり場になる機能をもっと認めれば、よりロコミで伝わるようになると思う。若い人はインターネットで情報を把握するが、行動動機とはなっていない。インターネットはバーチャル空間であり、行動する動機にはならないのであまり過剰に評価する必要は無いと思う。それよりアナログな人と人とのつながりを大事にして、市民活動支援センターのよさを感じさせることが大事である。信頼できる範囲の人々の情報を広げていく努力が必要である。おそらく人権、男女共同参画センターが混ざっており、縄張りをどうするかについて収まりがつかないところにも原因があるのではないか。ごちゃごちゃでも構わないと思うが、妙に縄張り意識が強いために前に進まない気がする。

そのような感じの記述を入れることで明るくなるのではないか。

○企画財政部長

「質」や「名張力躍動」という言葉が出てくるところに書いていきたい。

○会長

それはひいては名張の土地の価格の下落を食い止め、場合によっては駅前の価値を上昇させることであるので、そういう観点を入れておいてはどうか。希望もはっきり出し、減らすばかりが仕事ではないという、戦略に対する示唆にもなると思う。

○委員

今住んでいる人に、良い名張に住んでいると思ってもらうためにすることは書いてあるが、自治体間競争の部分で、どのように新しい人を呼び込むかという部分もあった方がよい。

○会長

一つは名張観光開発戦略のプロジェクトを立ち上げてほしいと思う

○委員

それはやってほしい。以前やなせ宿の駐車場を利用したとき、5時きっかりに閉まってしまい、時間を過ぎたことですごく怒られたことがあるが、観光客にそういうことを言ったら来てもらえなくなってしまう。もてなす気持ちが大変だと思うので、多少遅れたとしても、楽しめましたか？と声を掛けられるくらいの人を置いたら、名張のイメージアップにつながるのではないか。歩くとよく分かるが、名張駅西口の藤堂邸の通りはシャッターが閉まっているところが多いので、色を塗り替えるなどしてきれいにしてほしい。明るい雰囲気作りが大変だと思う。

○会長

観光を意識するのであれば人に見られることや、入ってもらって評価されることを攻撃的に求めていかなければならない。それは内向きになっていると思う。

○委員

市民の活動の場というだけでなく、そこでご飯を食べて歩いてもらおうとして整備したはずなので、本末転倒ではないかと思う。

○行政改革推進室長

総合計画があつて、それが順調に進んでいくなら行革のプログラムは不要であるという意見は内部にもあるが、「質」というものを横串で見えていくのは行政改革のような発想でないとできないと思う。今いただいた意見を参考にそのあたりをはっきりさせていきたい。

○会長

明るさ、おもてなしの心、まちのグレードの高さ、文化の底力などを大切に守って価値あるものとして行動するというのも「質」であるので、そういう記述をすれば分かりやすいと思う。職員の仕事の「質」の高さで言えば、親切、丁寧、優しい、正確、誠実などが要求されているのでそのように記述を砕いていけば明るくなると思う。

○委員

教育に関して、日本型教育モデルを維持するのではなく、市場原理による質の保証に取り組んでほしいと思う。

○会長

それは個別におっしゃっていただきたい。個別課題なので委員会としては扱えない。

○委員

市立病院の健全化について何年も取り組んでいて、これからも見通しが暗いということであれば、看護学校も含めて、大学の医学部を移管するなどできないのか。

○企画財政部長

それは無理である。昔ならいろいろな話ができたと思うが、日本の医療界の現状は非常に厳しい。今は医師を増やそうとしているので、あと10年したらまた変わるかもしれない。

○会長

研修医制度を変えない限り無理である。

○委員

大阪には専門病院がたくさんあるので、そちらの有名な病院に行ってしまう。

○会長

研修医制度が自由化されたために、若い医師が都市部に集中してしまい、食い止めることができないことが原因である。兵庫の宝塚市でも産婦人科を閉鎖している。それは厚生労働省の政策の失敗で名張だけの問題ではない。

○企画財政部長

名張ではだんだん機能分担を進めていっており、これから上向いていくと思う。

○委員

予防医学的な啓蒙をする部門があればよい。病院についてよい口コミなどが広がれば変わってくると思う

○会長

それではありがとうございました。

次回会議は平成 22 年 1 月 18 日（月曜日）午後 1 時 30 分よりに開催予定。